

神楽や歌、楽しむ

施設利用者ら130人が参加



鶺鴒神楽や歌、踊りを楽しむ参加者の皆さん

十六年度普代村ディサービスセンター「合同新年会」は一月二十三日、同センターホ

ールで開かれ、ディサービス利用者や特別養護老人ホーム「うねとり荘」入所者、村老人クラブ連合会の会員など約百三十人が、高齢者同士の交流を深め、鶺鴒神楽や民謡、踊りなどを楽しみました。

開会では同施設の野崎幸太郎理事長が「皆さんの元気なお顔を拝見し、嬉しいです。今日は時間の許す限り楽しんでください」とあいさつ。昨年一年間ディサービスを休まず利用した皆勤賞の皆さん八人を紹介し、表彰しました。

続いて深渡宏村長が「これからも健康に留意して、来年もこの場で会いましょう」と祝辞を述べました。

式典終了後の祝賀会では、同施設を利用している堀内の藤島光男さん(75)が「ディサービスに通って十年です。これからも頑張って通います」と元気に乾杯。鶺鴒神楽の「恵比寿舞」や雫石町から訪れた菊池マサ一座の皆さんの歌や踊り浪曲など約一時間半楽しみました。

皆勤賞で表彰された最高齢者の宮本マサノさん(82)堀内は「おじいさん(正蔵さん)が入所していることもあって、ディサービスに週一回来ています。おじいさんも

歯がなくなると 脳の機能も落ちてくるの？

物をかむと、口の周りの関節や筋肉、口の中の神経などの感覚が脳に伝わり、脳の働きが活発になります。良くかんで脳を活性化させることは、手先を使うのと同様にボケ防止につながります。

しかし、残っている歯が二十本以下になると、かむ力が急激に低下し、うまく物をかむことができなくなります。良くかめなくなると、脳の働きが悪くなり、次第に脳が萎縮し衰えてゆきます。



歯を残して、 ボケ防止を！

歯本来の機能を果たすことができませぬ。しっかり治療、手入れを行い、一本でも多くの歯を健康な状態で保つことが大切です。残っている歯が多ければ多いほど、良くかめる入れ歯が作りやすくなります。

また、前歯より奥歯が残っていることで、かむときに強い力が



かむ回数が減ると脳の働きの低下だけでなく、むし歯や歯周病の進行、肥満・ガンなどの生活習慣病の原因にもなります。今一度、家庭での食事の内容について見直してみたいかがでしょうか。歯の健康を保って、いつまでも元気で生活できるように頑張りたいですよ。

食生活も大事です

ファーストフードや加工食品の普及で、日本人のかむ力も昔に比べ衰えてきています。

が働きます。奥歯でしっかりかめることが重要です。もしも歯がなくなってしまうたら、歯がなくなってしまうとあきらめないでください。失った歯に入れ歯を入れてかむことを実践してください。認知症(ボケ)の方の入れ歯を良くかめる

どんな歯でも 残っていればいいの？

虫歯でボロボロだったり、歯周病でぐらついていては、

待っているし、皆さんともこうして交流できるので楽しみにしています」と話していました。皆勤賞の皆さんは次の方々です。 敬称略

- ▽宮本マサノ(堀内)▽大上喜廣(旭日区)▽道下喜蔵(白井)▽和久ヨシ(堀内)
- ▽藤島光雄(堀内)▽中田富雄(白井)▽中田タイ(白井)
- ▽砂川末松(堀内)

集めた真心を 県の募金会に

堀内小が寄付

堀内小学校(田村えい子校長、児童五十二人)の須田大介児童会長(六年)らは昨年十二月十七日、役場を訪れ、赤い羽根共同募金で集めた八千二百七十二円を社会福祉に役立ててと、県共同募金会普

代村分会(会長・深渡宏村長)に寄付しました(写真)。そのほかにも村内の個人や団体などから温かい真心の善意をいただいています。

